

## 総括評価

## I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「総観光客数」は目標が未達の年度もあるものの、「尾道市入込観光客数」及び「外国人入込数」は目標を達成していることから、全体として目標を概ね達成している。</li> <li>■ 日本遺産事業の直接的な効果を示す指標について、構成文化財やその関連施設等の入込客数が示され、豪雨災害や新型コロナで未達の年度もあるものの、目標をおおむね達成している。</li> </ul>
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「文化財・日本遺産講座や文化財めぐり等によるアンケート調査の【郷土に誇りを持つ人】の割合」及び「各学校での日本遺産の総合学習等への取り組みによる、日本遺産認知度」について、全体として目標を達成している。</li> </ul>
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「日本遺産尾道に関する商品・サービス数」について、全体として目標を達成している。</li> <li>■ 日本遺産事業の直接的な効果を示す指標について、観光関連施設や日本遺産関連の旅行商品の売上が示され、全体として目標を達成している。</li> </ul>
(4) その他	—	—
総合評価	可	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体として目標を達成している。</li> </ul>

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ 基礎的な取組はなされており、官民一体となった組織を設立できている。また、文化遺産パートナー登録数など、文化遺産パートナーの育成・登録の活動においても、着実に実績を上げており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 歴史文化基本構想、文化財保存活用計画、歴史的風致維持向上計画など、長期的な戦略の策定をもとにした日本遺産の活用が図られているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 文化遺産パートナー制度を事業化していくことが望ましいが、小中学校の社会科の先生へのアプローチなどを積極的に行い、学校教育に活かされる仕組みを構築しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(4) 整備	個別評価	可	■ レンタサイクルの体験で、ストーリーが伝わるのかどうかといった検証をしていくことや、車での来訪が多いことに伴う駐車場確保等の課題について今後検討することが望ましいが、ビジターセンターや案内看板の設置、サブストーリーのパネル作成などの各種取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 経済効果の把握や自主財源の確保といった視点からの取組が行われることが望ましいが、モデルルートの設定、周遊アプリの制作など、必要な取組を行っている他、グリーンスローモビリティの運行事業、レンタサイクル事業など、利用者の二次交通対策も進んでおり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(6) 普及啓発	個別評価	可	■ 大学の教員や学生が日本遺産の調査研究等で地域の方と連携していくことが望ましいものの、大学での講義、総合学習での授業、シンポジウムの開催など、必要な取組を行っている他、文化財愛護少年団参加者数など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台が整備されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
(7) 情報編集・発信	個別評価	可	■ HP閲覧数等に課題があるものの、日本遺産HPの制作、SNSでの情報発信など、必要な取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。
総合評価		可	■ 全体として概ね、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び概ね必要な取組の実施ができている。

	評価理由
<p>① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これまでの事業成果を踏まえた新たな方向性も示されており、構成文化財である近代建築のビジターセンターとしての活用や景観創出によるナイトタイムエコノミーの創出などに新味が見られる。</li> <li>■ 箱庭的都市の魅力をさらに伝えるために夜景や新たな建物を活かす等、強みを生かした取り組みが具体的かつ発展的に記載されている。</li> <li>■ ビジョンである「新たな尾道文化の創造」の具体的な形として、「市民が主役になれる」というキーワードが示されているものの、市民がどのような形で参画して事業推進をしていくのか具体的に例示があると良い。</li> <li>■ 自立自走の仕組みについては、観光税、環境税、駐車場料金の上乗せなど、他地域の事例も踏まえて検討されることが望ましい。また、民間事業者が自発的にコンテンツを造成していく環境づくりに取り組むことが望ましい。</li> </ul>
<p>② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行政主体の取組であるが、行政としての役割を果たしており、評価したい。</li> <li>■ DMO、商工会、地域事業者との連携など、民間主導の体制づくりが一定程度機能している。</li> <li>■ 文化遺産パートナーでは新たな取り組みとして、旅行会社等と連携した実際のツアーガイド養成を始めたが、今後は富裕層向けツアーに対応した質の高いガイドの創出や新事業創造の事業主体となる活動が期待される。</li> <li>■ 観光事業化促進に向けた、更なる取り組みの展開が期待される。</li> </ul>
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規事業について、尾道の強み、リソースを理解した上で、これまで作ってきた土台を活かした戦略的取り組みである。</li> <li>■ 補助金等の活用による歴史資源の保全活用は進められているが、日本遺産としての自走型の展開が課題。</li> <li>■ 尾道らしい民間事業者との関わり方の模索が必要。</li> <li>■ 計画の見える化、事業の具体化を市民に向けてもわかりやすく示すことを期待。</li> </ul>
<p>評価結果</p>	<p>認定継続</p>